



# 米子市埋蔵文化財センターたより



第48号

2023年3月

## 伯耆町 こまちこしきのほら 小町越城野原第11遺跡 一段状遺構を検出

令和4年11月から調査を実施しています小町越城野原第11遺跡では、西から東へのびる丘陵の南側斜面で段状遺構5基を検出しました。

段状遺構は、丘陵の斜面を削って築いた段状の平坦面の遺構です。段状遺構は、5基が東西方向に重複していますが、その時期的な先後関係は明らかにすることはできませんでした。また、性格はよくわかりませんが、段状遺構の平坦面で石を1ヶ所に集積した集石遺構3基と石を弧状に並べた石列1基を検出しました。段状遺構の時期は、出土した遺物から7世紀前半と考えられます。

調査地の南側斜面には、これ以外にも段状遺構の痕跡と考えられる窪地地形がありますので、さらに数基の段状遺構が存在すると考えられます。

小町越城野原第11遺跡の発掘調査は、来年の3月まで実施する予定ですので、今後、どのような遺構が見つかるか楽しみです。(高橋)



段状遺構の平坦面上の集石遺構と石列

## 発掘調査情報

### － 福市遺跡日焼山地区の令和4年度試掘調査 －

福市遺跡は、昭和49年に国史跡に指定された古墳時代を主とする古代集落跡です。令和元年に住宅側の斜面の擁壁の一部が崩落したのを契機に擁壁の再整備が始められました。令和2年に日焼山北側の試掘調査がなされ、令和3年に北側に新しい擁壁が整備されました。

今年度は、南側の擁壁がない部分の整備が計画されたので試掘調査が行われました。この斜面には団地造成時に横穴墓（日焼山1号墓）が発見されていたので、横穴墓の有無などの遺構の確認を目途に2月から始められました。幸いにも試掘調査で遺構は確認されませんでした。また、日焼山1号墓は擁壁を工夫して現状保存される計画です。（佐伯°）



試掘状況



日焼山1号墓横穴発見時写真

## 整理室たより

### －<sup>ふくながし</sup>福長下<sup>はら</sup>モノ原遺跡出土鉄滓の化学的分析－

令和3年度に発掘調査を実施した福長下モノ原遺跡では、16世紀の製鉄炉が検出され、製鉄を行った際に生じる不純物である鉄滓（てっさい）が多量に出土しました。鉄滓を化学的に分析し、その化学成分の組成を調べることによって、どのような砂鉄を原料として使い、どのような製鉄を行っていたかがわかります。分析の結果、福長下モノ原遺跡では、調査地周辺で採取したチタンや不純物が多い赤目砂鉄を原料として使い、製鉄炉内の温度が高温に保たれ、良質な銑鉄（せんてつ）が生産されていたことが明らかとなりました。

銑鉄は炭素の量が多いため、鉄素材としては硬いですが脆く、このままでは鉄製品をつくることができません。そのため、さらに精錬鍛冶（せいれんかじ）を行って銑鉄内の炭素を抜いて、鉄製品の鉄素材をつくります。（高橋）



分析を実施した鉄滓



## 遺跡シリーズ 浅井 11 号墳 (あさいじゅういちごうふん)

浅井 11 号墳は、南部町浅井の峰山の南東に位置する標高 60m の独立丘陵上に立地する前方後円墳です。

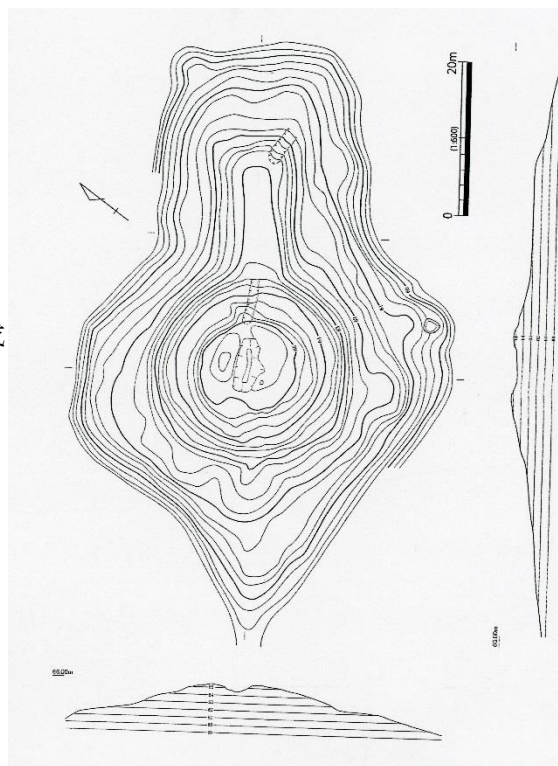
丘陵上には 32 基からなる浅井古墳群があり、11 号墳はその盟主墳です。

古墳は 1912 年(明治 45)頃に、画文帯神獸鏡が出土し、古墳時代前期の古墳と推定されていました。

墳丘は全長 44m、後円部径 26m、高さ 3.5m、前方部幅 15m、高さ 1.5m の規模を持つ柄鏡形で、二段築成されています。

後円部の埋葬施設は、盗掘されて大きく攪乱されておりほとんど失われていますが、竪穴式石槨と確認されています。

出土遺物は、鏡と鉄剣片、土師器片が知られるのみですが、古墳時代前期前半(4 世紀前半)の山陰でも古い時期の古墳と考えられており、古墳の被葬者は普段寺 1 号墳や三崎殿山古墳などの法勝川流域を支配した首長系列の豪族であったと考えられます。(小原)



浅井 11 号墳古墳図 (新鳥取県史より)

### コラム 発掘された遺物

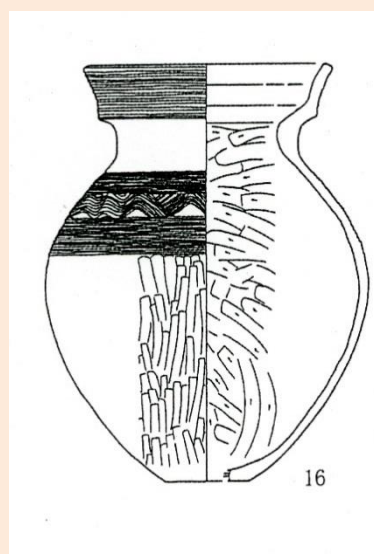
弥生時代後期は、およそ二千年前から千八百年前と考えられています。

弥生時代後期前葉の土器は口縁が拡張され数条の平行沈線文等を施すようになります。

後期中葉の土器は口縁の沈線が多条され、平行や波状の施文がされ、肩部にスタンプ文が押されたりします。

後期後葉の土器は楕状施文具による多条の平行沈線や波状文が盛行し、また、それをナゲ消したりします。中期のような装飾性豊かなものは失われています。(小原)

### — 弥生時代後期の土器 —



後期の土器 (新鳥取県史より)

## センター・資料館日誌

1月31日（火）福岡県埋文センターの大場氏が有溝石鍾の調査で来館  
東大淀江プロジェクトの佐藤教授ほかが淀江の古墳遺物調査で来館。



大場氏の石鍾調査



東大淀江プロジェクトの調査

2月1日（水）福市考古資料館企画展3「発掘された陶磁器」開会。



企画展3展示状況

2月22日（水）尚徳小学校3年生児童が古代学習で来館し、遺物学習と火

越しの体験等を行った。



尚徳小の体験学習

3月6日（月）青谷上寺地史跡公園の高橋氏が畠中資料の調査で来館。

3月9日（木）むきぼんだ史跡公園の森藤氏が妻木晩田遺跡と尾高浅山遺跡資料の調査で来館。

3月22日（水）島根の幡中氏が新屋宮ノ段遺跡の資料調査で来館。

## 編集後記

日増しに暖かくなり春めいてきました。コロナウイルス拡散も収まりつつあり、新年度に向けて活動再開が期待されます。職員は年度末をいわず現場作業に出かけて頑張っています。

発行日 令和5年3月30日  
発行者 米子市埋蔵文化財センター  
指定管理者（一財）米子市文化財団  
電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp